

Moving

ムービング

CONTENTS

| 20周年記念特集 P2

ハタチのムーブ

| ムーブフェスタ 2015 報告 P4

| 講座報告 P7

| 誌上講座 P8

女性はなぜ活躍できないのか
第2回「女性活躍推進法について考える」
日本女子大学 人間社会学部 現代社会学科
教授 大沢 真知子

| 特集 P9

北九州市の男女共同参画は
どこまで進んだか

| おすすめ講座紹介・ お知らせ P10





ムーブサポーター

代表 築別 悅子さん

「ハタチのムーブ」。20年間サポーターとしてムーブと共に歩いて来た道、楽しかった思い出ばかりが、走馬燈のように頭の中をかけめぐります。サポーターのTシャツを着て我が家から電車、バスと乗りかえてムーブに帰つたり、乗り物の中まで「ムーブ」の宣伝をしながら活動してきました。20年間の楽しかったこと「サポーターの仲間たちとの出会い」は今も続っています。今後も10年、20年とサポーターでムーブを支えていきます。

北九州市女性団体連絡会議

会長 松村 佐和子さん

この20年間、ムーブは社会状況を踏まながら、男女共同参画社会の実現に向け、ニーズに対応したさまざまな事業をリードされました。今年、結成32年になる私たちの北九州市女性団体連絡会議も「男女共同参画社会の形成」を目的とし、ムーブを活動の拠点として、地域での啓発活動にムーブと共に歩み込んでいます。ムーブあっての北九州市女性団体連絡会議です。すばらしい未来を信じて、これからも共に手を携えて、また新しい歩みを踏み出しましょう。

北九州市食生活改善推進員協議会

会長 大石 紀代子さん

平成7年の開所時より「私たちの健康は私たちの手で」を合言葉に活動しています。

毎年ムーブフェスタでは、「賢く選んで心と体においしい食事を」をモットーに、海の幸や山の幸の地産地消の食材を使い、塩分控えめの野菜たっぷりの献立をヘルシーバイキング方式で開催、フィットネスルームではストレッチ体操で楽しんでいただています。

ムーブが今後ますます発展されることを念じています。

20周年記念誌を発行しました!!



平成27年7月1日
ハタチになりました!



平成7年7月1日
ムーブ開所!!



平成9年



平成14年



平成17年

Our Asian Study Circle

代表 井生 郁子さん

20年前、ムーブ開所と同時に店を開いたアジアの物品等を販売するボランティアの店「OASC」です。ムーブを拠点として活動する方たちのおかげで成立している店の売上益は、ネバールの教育資金援助、市内の障害者施設支援、国内外の災害見舞等に使われます。開所20年を経て、ムーブのますますの発展を会員一同祈念しています。

高齢社会をよくする北九州女性の会

代表 富安 兆子さん

ふるさと創生基金を主たる原資として、アジア女性交流・研究フォーラムが設立され、さらに5年後の1995年7月にムーブが誕生。以来、着実に経験を積み重ねつゝ時代の趨勢(すうせい)を反映した取り組みを拡大してきました。ムーブ最大の強みは、表裏一体の関係にあるフォーラムの研究部門とのタイアップによって交流部門をも活性化し発展してきたこと。1/5世紀を経た今、北九州の女性と男性の、時代を拓く活動拠点として頼りにされるセンターであり続けてほしいと願っています。

ムーブな仲間たち

代表 中林 和子さん

ムーブは開所以来、志高く、熱意ある研究者・職員、また多くの市民の支援・行動でやるぎない場となっています。ムーブな仲間たちは、1995年7月「女性解放をジャズにのせて」をテーマに、MASA(サックス奏者)を招き人々に大きな感動を与えました。以後地元で活動する障がい者の方々などと共に多くの参加者に理解を深める場を提供してきました。今後もすべての人が「共に生きる感性」を持つ心が育つことを願っています。

20周年記念特集

ハタチのムーブ

20年の思いを込めて、
いま、ここから未来へはばたく。

ムーブは、今年7月で開所20周年という大きな節目を迎えました。

いわば、成人を迎えた「ハタチのムーブ」は、市民の皆さまとともに歩んできた20年でした。20周年にあたり多くの方々からメッセージをいただきまして、その一部をここにご紹介します。

この20年、男女共同参画社会の実現に向けての歩みは着実に進んでまいりました。しかし解決すべき課題はいまだに多くあります。これまで市民の皆さま歩んできた歴史を重く受けとめながら、さらなる飛躍を目指したいと思います。今後とも、皆さまのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 所長 西本 祥子

「おんなの軌跡北九州」を楽しむ会

代表 川原 昌子さん

北九州市の女性史「おんなの軌跡北九州」は、北九州の女性たちが時代とともに懸命に生きてきた生の姿を伝えています。女性史の編さんに係わった私たちは、本発行後月1回ムーブに集まり、朗読をして彼女たちの業績をたどり研究を深めています。活動は今年で9年目を迎えました。そして女性史を広く市民に知ってもらう目的でムーブフェスタで毎年朗読会を開催し、好評を得ています。今後もムーブとともに北九州の女性を応援していきたいと思います。

朗読ボランティア「よもぎ会」

代表 森山 郁子さん

私たち朗読ボランティア「よもぎ会」も平成7年ムーブ開所と同時に10月から活動室をお借り出来るようになり、打合せ、朗読のけいこ、大型紙芝居作りをし、20年の長きにわたり、ボランティア活動を続けています。平成14年に男女共同参画センターと名称が変わってから、男性会員も募集しています。今後ともムーブのご発展をお祈りすると同時に「よもぎ会」の活動の拠点として続けられることを感謝しつつ頑張っていきます。

ガーベラプロジェクト

代表 加藤 舞さん

毎年様々な形でお世話になっている私たちガーベラプロジェクト(ムーブ学生活動プロジェクト)にとって、ムーブはなくてはならない存在です。いつも優しい職員の方の手助けがあってこそ、イベントを開催することができます。これからもどうぞ指導ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

ムーブ相談室 特別相談員

黒瀬 まり子さん

出会うことで聞かれる、理解することで見えてくる、気づくことで変わっていく…ムーブは変化を起こす不思議なサラダボールのよう。はじめて出会ったムーブは、女性学やフェミニスト・カウンセリングなど、大学とは一味も二味も違う新鮮な学びの場でした。今、そこで、自分らしい生き方を求める方に寄り添えることが、とても幸せです。これからも、素敵な変化を生むオアシスで続けてくださいね。



■ガーベラプロジェクトラジオ番組制作



■データDV防止パネル展示



■働き女子の夢をかなえるキャリアアップフェア

男女共同参画へのムーブメント

ムーブフェスタ2015

ハタチ
ムーブ

報告

ムーブ開所20周年記念

ムーブ開所20周年記念式典＆ オープニングイベント



菊池桃子さん講演会

いつも前を向いて

～学ぶ楽しさ・生きる楽しさ～

菊池 桃子さん

平成27年7月4日(土) ムーブ 2階 ホール



オープニングイベントでは、女優で戸板女子短期大学客員教授の菊池桃子さんをお招きして、ご自身の経験を踏まえて、いつも前を向いて、学び、明るく生きる楽しさを男女共同参画の視点からご講演いただきました。

来場者からは「菊池桃子さんの学ぶということへの大変な努力を聞いて、私も頑張ろうと思いました。とても勉強になりました。」「菊池さんの誠実な人柄が感じられるお話の中に、初めて知る内容も多く、新たな気付きがありました。」という声が寄せられました。



ムーブ開所20周年記念式典

7月4日にムーブ開所20周年記念式典＆オープニングイベントを、内閣府大臣官房審議官、国・県・市議会議員、北九州市女性団体連絡会議、ムーブネット登録団体、ムーブをご支援いただいている方々をご招待して開催しました。

内閣府の華房実保審議官からは、「今年度の男女共同参画週間のテーマ『地域力×女性力=無限大の未来』のとおり、地域で女性が力を發揮することにより未来を創造していき、ムーブが各地のセンターのロールモデルとなって、男女共同参画の輪がさらに広がっていくことを期待します。」との応援メッセージをいただきました。

また、ムーブ喫茶の運営をはじめ、長年、男女共同参画に関する地域活動にご尽力いただいている北九州市女性団体連絡会議と、ムーブの開所以来、さまざまな事業のボランティア活動をしていただいているムーブサポーターの皆さんに感謝状の贈呈が行われました。

サマーカーニバル

平成27年7月18日(土)
ムーブ 1階 交流広場

今年は歌にダンス、楽器演奏、手品など、バラエティーに富んだ15グループが集まりました。

毎年出演を楽しみにしているグループが多く、明るく元気いっぱいの笑顔が集まるステージに、たくさんの声援や拍手が響きました。



出演グループの皆さま、
楽しいステージを
ありがとうございました！

こどもマルシェ& こどもを守る 防災講座

平成27年7月11日(土)
ムーブ 1階 交流広場

●こどもを守る防災講座

司会進行／ムーブフェスタ実行委員 長尾恵美子さん

静岡県浜松市よりNPO法人はままつ子育てネットワークびっぴ副理事長で防災士の鈴木里枝子さんをお迎えし、ワークショップを交えたセミナーと「防災○Xクイズ」を開催しました。

災害は想定どおりには起こりません。訓練どおりにすれば必ず大丈夫ということではなく、いざとなったらそれ以上のことを考えて行動しなければならないのです。自分の身は自分で守ることなど、東日本大震災発生当時の実例をもとに、災害発生時の避難方法や心がまえをお話いただきました。親は「自分が犠牲になってしまふ子どもには助かってもらいたい」と思うかもしれません、子どもの将来には親が必要です。家族全員が災害時に助かるよう、日頃から家族会議を開いて子どもにも自分自身を守る術を教えておくことの重要性を教えていただきました。

防災○Xクイズでは、「道路が冠水している場合、長靴をはいて杖について歩くとよいか？」(答えはX)などを出題し、全問正解者の内から5名の方に、防災グッズの詰め合わせが贈されました。



【講師】NPO法人
はままつ子育て
ネットワークびっぴ
副理事長



毛布を使った負傷者を搬送する訓練

●こどもマルシェ

ムーブに「こどもマルシェ」が1日限定でオープンし、4歳から11歳までのかわいい「こども店員さん」が活躍してくれました。

地元で活動している団体や学生などの協力で7店舗が出店。野菜や海産物などの直売、スーパー・ボールすべりやバルーンアート、北九州市人権の約束事運動マスクットキャラクターのモモマルくんと記念撮影ができる写真館もあり、大盛況でした。



行列のできる!? 法律相談Q&A

平成27年7月18日(土)ムーブ 1階 交流広場

【講師】都築 昌義さん 法テラス北九州
法律事務所弁護士

法テラス北九州の弁護士を講師に迎え、相続問題や近隣トラブル、クーリングオフ制度など、誰にも起こりうる身近なトラブルをクイズ形式で解説するイベントを開催しました。「法テラスが身近になりました」等のご意見があり、ムーブの利用者に法テラスやムーブ相談室のことを知っていただく機会になりました。



マガジン リサイクル御礼!!

平成27年7月4日(土)~21(火)
ムーブ 1階 図書・情報室入口

ムーブ図書・情報室の蔵書のうち、保存年限を過ぎたため除籍した雑誌等を、無料でお持ち帰りいただきました。

毎年恒例の事業ですが、行列のできる日もあり、たくさんの方々にご利用いただきました。おかげさまで、2,021冊の本がリサイクルできました。ありがとうございました。

ムーブフェスタ2015

報告

第18回

ジェンダー問題 調査・研究報告会

平成27年7月10日(金) 19:00~20:40
ムーブ 5階 小セミナールーム

平成26年度にジェンダー問題調査・研究支援事業の対象となつた研究者が、研究成果の報告を行いました。



[テーマ] 性的マイノリティの学生支援における課題

【報告者】
北九州市立大学文学部
人間関係学科 教授
河嶋 静代 さん

【コメントター】
元田原基督教大学
ジェンダー研究センター長
田中 かず子 さん

文部科学省は2015年に、性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について通知しました。大学においても、性的マイノリティの学生たちの修学環境の整備が求められていますが、その取り組みは遅れています。そこで、大学の性的マイノリティの学生に対する支援の状況と、支援が進まない理由を明らかにし、性的マイノリティの学生を取り巻く修学環境が整備されることを目的として、全国の国立、公立、私立大学、短期大学を対象に調査・研究を行いました。

【調査結果】

ほとんどの大学で、学生生活の手引書や、学生相談室のリーフレットに性的マイノリティについての記載がされておらず、また、9割近くの大学が、セクシュアル・ハラスメントに関するガイドラインに、性的マイノリティへのハラスメントの言動の例示を記載していませんでした。そして、性的マイノリティの学生からの相談については、性的マイノリティの専門でない相談員が対応したという回答が一番多いという結果が出ました。5割近くの大学が、性的マイノリティの学生に対する支援の必要性を感じているにも関わらず、多目的トイレの設置や通称名の使用等の配慮を行っている大



学は3割弱に止まり、教職員に対する性的マイノリティの人権をテーマにした研修の実施率に至っては1割未満でした。

以上のことから、性的マイノリティの学生への支援における課題を解決するためには、(1)性的マイノリティの学生支援のガイドラインを作成する。(2)性同一性障害の学生に対して、他の障害学生と同じように支援の対象として位置付け、対応する。(3)当事者の学生の意向を反映した、通称名の使用に関する仕組みを作る。(4)セクシュアル・ハラスメント防止のガイドラインを見直し、性的マイノリティの例示を規定する。(5)相談窓口を周知する。(6)教職員・カウンセラーが研修を受け、性的マイノリティへの理解を深める。という提言がされました。

【コメント】

この調査・研究は、性的マイノリティの学生支援に関する、初めての全国規模データに依拠した重要な調査・研究です。国際基督教大学は聞き取り調査の対象校となっていますが、今回の報告書の提言の部分に関連して、私たちの試みから見えてきたことをコメントとして報告させていただきます。

国際基督教大学では、性的マイノリティの学生支援は、人権問題への取り組みの一環として位置づけてきました。セクシュアリティに関する差別の言動は、人権侵害として人権委員会で取り上げられます。性別違和のある学生は、学籍簿の氏名・性別の変更が可能ですし、学内書類等は基本的に性別欄はありません。できるところ制度や環境を整えてきましたが、根本的解決とは程遠いことが明らかになってきました。

性的マイノリティへの支援とは、実はマジョリティを中心とした既存の社会構造への包摶にとどまり、性的マイノリティを差別し排除してきた、まさにその構造は何ら変わることなく存続し続けているからです。今ここでのマイノリティ支援は緊急を要しますが、同時にキャンパス文化の底上げをし、マイノリティの問題ではなくマジョリティの問題として取り組むことが必要です。そのためにも、特にセクシュアリティについて、考え方を合う安心安全な「場」を確保していくことが大切です。

講座報告

平成27年度男女共同参画講座【ムーブ開所20周年記念イベント】

山の動く日来る ~ワーキングマザー『与謝野晶子』の生き方~

平成27年6月13日(土) 14:00~15:30 ムーブ 5階 小セミナールーム

現代の女性と同じようにワーキングマザーとしての悩みを抱えながらも走り続けた晶子の生涯を福岡県出身の歌人 松村由利子さんにお話いただきました。晶子の歌の変遷や幅広い仕事ぶり、思想など知られていない姿に会場の皆さんも熱心に聞き入っていました。



【講師】歌人・フリーライター
まつむら ゆりこ
松村 由利子 さん

数を大きく伸ばし、女性誌が多く創刊された時期だった。ヨーロッパで見聞を広めた晶子は、時代が求める評論家だったといえよう。彼女は常に新聞7~9紙ほど読んでおり、今で言うメディアリテラシーを身につけていた。学歴は高くなかったが、新聞や雑誌、本を幅広く読むことで積極的に学び続けた姿勢には感じ入る。

平塚らでうらとの「母性保護論争」では、「女性も経済的に自立すべきだ。男女が同じように職業を持って働き、同じように家事や育児に携わるが望ましい」と主張した。もちろん、まだ「男女共同参画」という言葉も概念もなかった時代である。論争では「母性」がキーワードだったが、晶子は「むしろ父性を保護せよ」と、時代に先んじて男性の育児参加を訴えている。さらに彼女は、あらゆる年代の男女が、生活の糧を得るためにだけでなく、自らを高めるために働く社会も夢見ていた。

文学者としてのみならず、ジャーナリストとしても活躍した晶子の時代を超えたまなざしは、今なお私たちを魅了する。



今年2年目を迎える「お役立ちワンポイントセミナー」。働く女性、働きたい女性のために毎月1回いろいろなテーマで開催している人気講座です。

今年4月には、好評につき2回目となるビジネス・プレゼンテーション講座を、5月には日本で生じている薬草などの植物“ハーブ”を使ったオリジナルスプレーの作成や、ストレッチやリラクゼーションを取り入れ体を動かす「ストレスフリー」など自分にあったストレス対処法を身につける講座「ストレスケアの処方箋」(全3回)を、6月には足の健康と自分にあった靴選びを学ぶフットケア講座を開催しました。

8月の「イラライ解消!怒りを管理する方法」では、アンガーマネジメントを推奨している日本アンガーマネジメント協会より講師を迎え、怒りの感情に向き合い、上手にコントロールして適切な問題解決や円滑なコミュニケーションの取り方などを学びました。自分の「～すべき」と考える理想と現実のギャップからうまれるという「怒り」。家族など身近な対象ほど強く感じやすく、夏休み期間中ということもあって、子どもに対する接し方や、家族や職場の現状を振り返るよいきっかけになったようでした。

今後も「女性の健康」や「仕事と介護の両立」、ビジネスの場面で実践できる「整理術」など、働く女性に役立つ内容で開催を予定しています。

おはなし会

8月19日(水)に、1階図書・情報室で「おはなし会」を開催しました。絵本の読み聞かせだけではなく、紙芝居や、牛乳パックを使った工作なども行い、親子一緒におはなしの世界を楽しみました。



次回の開催は12月の予定です。